

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200504		
法人名	株式会社 W (ダブリュー)		
事業所名	ういるグループホーム塩浜		
所在地	三重県四日市市大字塩浜4147-1		
自己評価作成日	令和 4年 11月 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvnoCd=2490200371-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4年 12月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①炊事や洗濯、掃除など、生活活動を日課として一緒に行なっています。</p> <p>②ADLの維持や向上の為に、毎日外の空気と日光に触れて頂いています。</p> <p>③入居様のやりたいこと、出来ることを職員と一緒に楽しくさせています。</p> <p>④コロナウイルスの関係上、感染予防対策をして出来る限り面会を実施しております。ご家族様への状況報告として、定期的に電話連絡をしています。また、毎月の通信やイベントの写真なども郵送しご入居の皆様の生活が分かるよう努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2013年12月に「認知症に特化した事業所」として四日市市に1件目を開業し、当事業所は2020年4月に5件目として開設した成長著しい法人である。開設してまだ約2年半であるが、理念である「その人らしさ」「笑顔」を大切にされた支援が行われている様子が毎月の通信や家族アンケート、管理者・介護支援専門員・職員の考え方や行動、利用者家族からの感謝の言葉等から読み取れる。チームワークも良く、問題等が生じて「利用者にとって何が一番大事か」を中心に考える体制が整っている。また事業所の前にカーブミラーを設置し交通の安全にも積極的に取り組み、地域にも貴重な存在となっている。職員育成に対しても手厚く、資格や研修会への参加なども法人から積極的に進め、職員からの感謝と共にレベルアップにも繋がっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念の「ありのままにその人らしく」をモットーに認知症疾患を抱えたとしても、その人らしさを大切にして過ごせるよう努めている。また職員と一緒に作った「関わるすべての方が笑顔に包まれるような施設を目指します」という施設理念に努めている。	理念通りにほぼ出来ている。基本として「自分で出来る事は自分で」をモットーに、役割を考えながら支援している。利用者も職員も「笑顔」で接する事を一番に心掛け、職員会議で振り返りも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの関係上、施設での交流イベントは出来ませんが、毎日施設近隣の散歩にて挨拶を交わすことにより顔馴染みの方が出来ている。	自治会長や民生委員は、開設当初から積極的に交流し協力体制も整っている。近所のご夫婦で奥さんは季節を感じる粘土細工を毎月持って来られ、ご主人は1階のベランダの手摺りを作って下さるなど地域との交流も信頼が厚い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの関係上、地域に向けたイベントは自粛しておりますが、地域の方々との関わりの中で認知症の理解を広められるよう努めています。地域住民の方からの介護相談なども数件受けており、包括や在介などとも連携を取り、相談など行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの関係上、本年度も運営推進会議は文書報告による開催となりました。ご意見についても郵送にて返信頂き意見交流行なっている。	コロナ禍で参加メンバーへ議事録での報告である。内容は日々の外出・一人ひとりの誕生会・七夕・夏祭り・寿司やピザパーティーなど活動報告、ヒヤリハットでは、対応・考察・対策と流れが記録されており、事業所での取り組みが分かる貴重な議事録となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護高齢福祉課や包括、在介の方々とも福祉事業の取り組みの理解と協力関係が築けるよう取り組んでいる。	四日市市で5件目の事業所で、行政とのつながりも深く信頼や連携も密である。電話での相談も気楽にでき協力体制も整っている。今年4月、市役所から徒歩5分位の所に居宅介護支援事業所も開設し、これからの関係性も楽しみである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討会を3カ月に1回実施している。その際に、身体拘束について、虐待の種類についての研修も実施し行なっている。	身体拘束委員会については規約通りに行っており、「身体拘束」「虐待」などについても正確な情報を把握している。他にも「安全対策委員会」「感染対策委員会」など全職員がそれぞれの委員会に入り、研修会や資料作り等実践に役立っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修等により周知している。職員会議の中で虐待についてのアンケート等も実施し、職員間でも虐待行為を見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスの関係上、外部の研修の参加は希薄となっているが、今後、リモート研修などの参加や実施により学習する機会を作っていけるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、利用者・家族に理解して頂き承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であるが感染予防対策を徹底して出来る限り面会の機会を設けており、その際にご家族からのご意見、ご要望を聞いている。	面会は10分間だが行っており、短い時間でも利用者も家族も大変喜ばれている。2ヶ月毎の理美容訪問で約6名が髪染めをしており、洗髪は大変だがお洒落を楽しむ気持ちに事業所全体が癒されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を1か月に1回実施しており、職員の意見を吸い上げ、職員皆で一緒に考えていける体制の環境作りに努めている。	要望や希望など気楽に話し合える雰囲気である。法人から積極的に資格の取得や研修会を進めている。その日は勤務日としてカウントされるのも感謝と信頼に繋がっている。職員会議では全職員が意見を言えるように体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行ない、思いや考えを聞ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の度に社内研修を行なっている。外部研修会については、コロナウイルスの関係上、少ない状況ではあるが、今後はリモート研修など参加出来るよう努めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在介や包括、他の介護施設の管理者との交流、意見交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族より要望を聞き取り、精神面でも安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人や家族より要望を聞き取り、関係性を築けるように努め、本人、ご家族共に精神面でも安心して生活していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメントで本人の状況把握して、生活環境等の情報収集を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯、掃除などを職員や他入居者と一緒に行うことにより、暮らしをともにする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性等配慮しつつ、協力して頂けることは依頼している。報告、連絡、相談を密に行ない共に支えていける支援を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、馴染みの人が気軽に来所される事は難しいが、面会の機会を設けて馴染みの方との関係が途切れないように努めている。	1階のベランダで、日光浴をしながらの朝のおやつタイムは1階2階の利用者の楽しみとなっている。近所の小さな子どもや住民の方々の声掛けなど、今までとは違う関係性の馴染みができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しつつ、個人の意思も尊重しながら、生活リハビリやレクリエーション、催事等を通じて利用者が孤立する事がないように職員が交流を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも必要に応じて、家族様のフォローや相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との会話の中から一人ひとりの希望、意向を把握し、本人の表情や行動を観察、支援するように努めている。	入居当初のアセスメントでは管理者と計画作成担当者と一緒に話を聞くようにしている。話しながら不穏になり歩き回るのも一緒に行動し気持ちの共有に努力している。支援時も「何を思っているのか」の視点を大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、過去の暮らしや生活歴、これまでのサービス利用の経緯等を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で個々の一日の暮らし方を大切にしながら、言葉や表情を観察し小さな変化も職員間で共有して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・協力機関と連携して、相談しながら得たアイデアを反映した介護計画作りにも努めている。	日頃の職員の気づきや利用者の想いを大事にしなが、職員会議でモニタリングや今後の支援について話し合い介護計画に活かしている。長期目標は1年、短期目標は半年としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良い介護計画書となるようケアプランの書式の見直し含め、個別に生活記録を作成し、職員間で情報共有を行い、ケアの実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて協力医への相談や追加往診、他専門医への相談や往診を行なっている。また訪問美容など、その時のニーズに合わせた対応、サービスを利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係上、地域イベントも無い状態である為、参加は出来ていないが、地域の清掃活動など参加できる活動には参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は在宅医療機関の協力を得ており、月に2回の往診と、24時間体制での連絡、訪問を行える体制をとっている。	月2回の訪問診療と、24時間体制の協力を得ている。また歯医者も週1～2回の訪問にて、口腔ケアから始まり歯の健康、義歯の調節など親身に対応しており、利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関にて、必要に応じて訪問看護は受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療情報はかかりつけ医療機関に行なってもらい、日々の過ごし方、支援内容については施設側から情報提供させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期状態になった場合、本人・家族・主治医などと話し合いをし、希望に沿った支援方法を共に考えられるよう努めている。	今年度は2人の看取りを行い、最後は家族も立ち合う事が出来とても喜ばれていた。介護支援専門員は看護師資格を持ち、協力医と共に頼りになる存在でもある。終末期の研修なども看護師とを行い、職員の心の支えにもなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて勉強会の実施を行ったり、避難訓練の実施にて実践力を身につけられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マニュアルを活用し、地域との協力体制も築いていけるよう努めている。	コロナ禍で地域との訓練はなかったが、防火管理者でもある管理者を中心に事業所内での避難訓練を行った。事業所内が一番安全な作りになっているのも安心に繋がっている。	規約通りマニュアルは法人として作成し訓練も行っているが、真冬・真夏の停電時の対応、2階から1階への避難方法などの訓練も計画し実行されるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した丁寧な言葉かけを心掛けている。	一人ひとりの尊厳や個性を把握し、常に「何を思っているか」「何を望んでいるか」を念頭に置きながら理念に沿った支援を心掛けている。中でも言葉かけには注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中から、入居者本人の希望や思いを傾聴し、引き出せるよう努めております。したい事など、目標を持って自己決定できる支援ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活のリズムに合わせて支援できるよう努めている。職員から無理強いしないよう本人の希望や要望に配慮した支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や好みに合わせて、身だしなみを整え、おしゃれが出来るよう支援している。本人の希望に合わせて外出時のお化粧品や、入浴時のシャンプーや入浴後の化粧水など、個別で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節が感じられるような旬な食材を提供できるよう食事レクや、おやつ作りなど行なっている。また食事を楽しみながらできるよう調理や盛り付け、片付け等も一緒に行なっている。	業者から毎日翌日の材料が届き、料理は職員と利用者で作り片付けも一緒である。栄養管理もなされている為、入居してから体調が良好になっている。一人ひとりの誕生日には、職員がスポンジからの手作りケーキを作り喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者による栄養バランス、カロリー計算された食事を提供している。食事量、水分量など記録し、また毎月の体重測定を行ない健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し実施している。必要に応じて介助支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表にて排泄チェックを行なっている。必要に応じてトイレ誘導も行なっており、介助必要な方は羞恥心や自尊心に配慮し対応している。	水分量は1日1500CCを基本としている。また日中のトイレでの排泄を基本とし支援している。生活記録表を活かし習慣化し、自尊心を気付けない支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後と10時と15時に水分摂取を行なっており、1日で1000mlを目標にしている。必要に応じて好みの飲み物を提供したり、体操などを行ない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回実施している。入浴の曜日は基本決めておりますが、本人のその日の気分によって日程変更している。	週2回午前中の中の入浴で、脱衣場も浴槽も広く作られている。一人ひとり毎回お湯を替えている為、みんなが「一番風呂！」である。入浴剤も一人ひとりの希望に沿っており楽しみな時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や意思を考慮・尊重し、休息して頂いたり、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は事務所に保管しており、職員は常に確認できる環境であり、薬変更時には申し送り等にて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる事や好きなことをしていただけるように支援している。編み物が好きな方は編み物をして頂いたり、塗り絵や折り紙、食事作りの好きな方は食事作りやおやつ作りなど、入居者さんに合わせ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、車での外出や買い物は難しいが、毎日外の空気、太陽に触れていただけるように近隣への散歩に行ったり、ベランダで過ごしたりしている。	コロナ禍で以前のように外出は頻回に、また思うようにできていないが、事業所内での行事やレクリエーションなどは頻回に行っている為、利用者の笑顔は健在である。今後は感染に注意しながら外出する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理は行なっておりませんが、権利擁護や後見人が代理人の方に限り、日常生活用品購入の為に預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんのご家族や友人からの電話の取次ぎや手紙のやり取りなど行なっている。また、コロナウイルスの関係上、面会の規制もある為、テレビ電話などを使用してお話をして頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる設えに心掛けている。入居者と一緒に飾りを作り、飾り付けをしたりしている。	管理者の一押しは「地域交流室」で、とても広く玄関からも入りやすい。これからは利用者だけではなく名前の通り地域交流する予定である。共用部分は広くて明るい食堂兼リビングの多目的フロアである。利用者と共に自由に楽しく出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに合わせ席の配置を工夫している。また、一人でゆっくり過ごせるような共用スペースも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し居室の設えを考えている。昔の思い出の写真を飾ったり、アルバムなど持ってきていただいている。今後も慣れ親しんだものを持ってきていただき居心地の良い居室作りに努めている。	居室を出たらフロアが見えるような作りになっており、利用者の安心感にも繋がっている。入り口のドアや居室内は一人ひとりの個性が活かされており、フロアと一体化しているような居心地良い造りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の認知度や自立度に応じ、日々の暮らしの生活を自分で行なってもらえるよう支援している。		